

出題分析		
試験時間 120 分/2 科目	配点 60 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問数は例年通りの 3 題であり、Ⅰは小問集合、Ⅱは理論・無機分野、Ⅲは有機分野からの出題である。Ⅰは小問が 10 問という例年通りの問題数であり、解答を選択する数は昨年同様、小問 1 問あたり A、B の 2 つであった。Ⅱは昨年と異なり (1)、(2) の 2 つの中間に分かれていたが、Ⅲは昨年同様中間に分かれていなかった。設問数もあまり変化はなく、全体としては昨年と同程度の分量と言えるだろう。ただし、昨年同様、受験生に問うのは酷だと思われる問題がいくつか出題された。全体として問題量が多く、時間的には非常に厳しかったであろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	小問集合	小問が 10 問出題されたが、解答数は昨年同様各 2。計算を要する設問は 8 問で 1 問増加した。比較的解きやすい問題が多いが、受験生は知らないだろうと思われる設問もみられた。 選択 20 問、そのうち計算を要するもの 8 問。	標準
II	(1) Ca 化合物の反応 (2) 実在気体	(1) Ca 化合物と CO ₂ の反応を題材とした問題である。比較的解きやすい設問が多く並んでおり、得点率は高いと予想される。問 5、6 は平衡の移動を考慮する必要がある。 (2) 実在気体のファンデルワールスの式に関する問題である。初見であっても Z の表す意味を理解していれば解答できる。 知識・選択 6 問、反応式 2 問、計算 3 問。	標準
III	デンプン、プラスチック	デンプン、プラスチックをテーマとした高分子化合物の総合問題。前半は解きやすい問題が多い。問 5 のラクチドはメソ体に気づけるかどうか。問 6 は過剰量のエチレングリコールを加えているところに注意したい。 知識・選択 5 問、計算 2 問、構造式 1 問。	標準

合格のための学習法

標準的な問題が多いが、問題量が多いのでスピードが要求される。過去問演習をしっかりと行い、時間配分をつかんでおきたい。また、普段から問題を見たらすぐに解法が思いつくように訓練しておく必要がある。初見の物質や実験、装置などを題材とした、応用的な問題が出題されることがあるため、そのような問題にも冷静に対処できるよう、普段から原理原則を考え、意識するクセをつけて高得点を目指してもらいたい。